

「オオルリ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この時期、北軽井沢では多くの野鳥が見られるようになる。シジュウカラ、コガラなど、一年中いる鳥類に加えて、冬の間、もっと南の地域で越冬していた鳥類も帰ってくるからだ。



私の山荘は、周囲を混交樹林に囲まれ、東に鷹繫山(たかつなぎやま)がある。上の航空写真の赤い屋根が私の山荘、北側(裏庭)は森に囲まれた草地だ。野鳥にとっては、住みやすい環境なのだろう。



今朝、山荘の仕事場で原稿を書いていると、鮮やかな青い小鳥がすぐそばのモミジの切り枝に止まっていた。腹の羽毛が白い。これはオオルリだ。



オオルリ *Cyanoptila cyanomelana*

オオルリ(大瑠璃)は、スズメ目ヒタキ科の野鳥で、名の通り、鮮やかな瑠璃色をしている。腹部の羽毛は白く、こういう特徴の野鳥はほかにいないので、遠くからでも見分けがつく。「青い野鳥の御三家」の一つに数えられる。(他の二種は、コルリ・ルリビタキ)

オオルリは冬の日本では見られない。寒い冬は、東南アジアで越冬しているのだ。4月下旬から5月上旬に北に渡って、本州にもやってきて繁殖する。このような渡り鳥を「夏鳥」という。

オオルリは「草原と森林の境目」のような環境を好み、そこで飛んでいる昆虫を餌にする。近くに川がある場所に巣を作ることが多い。私の山荘の北側には、吾妻川(利根川水系)の支流の源流になっているので、そこに営巣する「計画」なのだろう。

オオルリは野鳥の中でも姿が格段に美しい。今回は「訪問」が突然だったので、カメラのフォーカスが甘く、あまり満足のいく写真ではない。鳴き声(さえずり)も美しいので、録音にも挑戦したい。